



第184号

発行所
一般社団法人 芝蘭会
京都大学医学部同窓会
〒606-8315
京都市左京区吉田近衛町
TEL 075-751-2713
FAX 075-752-4015
E-mail: info@shirankai.or.jp
http://www.shirankai.or.jp

主 な 内 容

- ⑥ 退任あいさつ・新任あいさつ
⑤ 校友会・KMS・FUNDだより
④ 京大主催「医学サミット」
③ 書籍紹介「高風萬里」
② 支部分より 愛媛・静岡・滋賀
支部分より 島根
人事異動・会員計報

医学会総会と芝蘭会臨時大総会

会員、どうぞって参加を

新年あいさつ

芝蘭会会長
京大理事・副学長

湊 長博



副学長を仰せつかり、幸い医学研究科との兼任をお認めいただきました。大学本部の仕事も併行して勤めさせていただきます。さて、2015年はいよいよ井村先生を会頭とする日本医学会総会の年です。4月11日～13日の学術講演をはじめ、学術展示、公開展示、医学史展などの準備が着々と進められております。今回の医学会総会は、平成3年の第23回総会以来実に24年ぶりの京都での開催であり、芝蘭会としてもその成功をめざして全面的に支援させていただきます。その一環として、医学会総会の初日4月11日(土)の夕方、ホテルグランヴィア京都において芝蘭会臨時総会を催す運びとなっております。芝蘭会では全国の各支部総会を始め学年ごとの同窓会や各種クラブの会が恒常的に開かれ、会員間の密な交流が行われてきておりますが、今回の臨時総会は地域や学年の垣根を越えて現役学生教員から全国で活躍されている

参加申し込みはホームページから
先着 (1000名)
http://www.shirankai.or.jp/

- 5) リハビリテーションのこれから
6) 環境変化と健康
7) サイエンスからみた心の問題・心の発達
8) 基礎医学からの提案

医 療

- 9) 日本の医療・介護制度を考える
10) 医療技術の評価 (ヘルステクノロジーアセスメント) と医療資源の配分
11) 医療とIT (情報技術)
12) 周産期・小児医療の課題
13) 在宅医療を含んだ慢性期医療
14) グローバルヘルス

き ず な

- 15) 効率的な医療人養成制度
16) 死生学 (終末医療、臓器移植、緩和医療)
17) 学生企画
18) 震災に学ぶ
19) チーム医療の新しい展開
20) 移行医療 (transitional medicine)

これらのセッションの他、約40の産業医向けセッションを計画しています。職場での健康や、疾患発症後のリハビリなどのトピックについて議論される予定です。

平成26年度の受章者

秋の叙勲

瑞宝中綬章

有川 勲 (昭45年卒)
元元国立療養所星塚敬愛園長

大先輩の先生方まで芝蘭会員が文字通り一同に会するという画期的な総会であり、芝蘭会の長い歴史の中でもおそらく初めてのことでしよう。現在担当理事の相馬先生を中心に着々と準備が進められ、さまざまな興味深い催しも企画されています。世紀をはさんで同じ近衛の医学部キャンパスで学び、議論し、遊んだ仲間たちが世代を超えて一同に会するということは、さぞかし壮観で素晴らしいことでしょう。すでにかんりの参加登録をいただいておりますが、まだまだ千人の目標には届いていません。この芝蘭会の一大イベントに多くの会員諸兄がごぞって参加されることを心からお願い申し上げます。

また、医学会総会に引き続き4月13日～14日には京大医学部主催の「World Health Summit (WHS)」が開かれます。これは、18連合(京大医学部、ドイツのCharité大、米国のJohns Hopkins大、英国のImperial College London大など)世界の八

第29回日本医学会総会 2015 関西



高橋 良輔
プログラム委員長

昨年、団塊の世代が65歳を超えました。明けて2015年、日本はいよいよ超高齢社会本番を迎えます。まさにその年に本総会が開催されることは、大きな意義があります。

今回の総会のプログラムは、今日のこうした社会環境を背景とした20の重要な柱に沿って討議を行うことといたしました。なかでも増大する高齢者の医療ニーズに対して、限られた医療資源でどう立ち向かうか、という課題は最も重いものです。そのために、未病のうちにその芽を摘む先制医療や、効率的に医療資源を配分するための医療技術評価など従来の発想を転換するようなテーマ、一方では医療現場で求められてくる在宅医療、チーム医療、リハビリ、終末期医療など多くのテーマを、この課題解決のためにとりあげるようになりました。

さらに、進展著しい再生医療、目覚ましく発展する基礎医学分野の企画をはじめ、少子化の問題、心の問題、環境変化の問題、国際化に伴う問題など、医学的にも社会的にも関心の高い多彩なテーマがそろいました。また、新しい試みとして学生による企画も用意しました。多くの芝蘭会同窓の先生方のご参加を心よりお待ちしております。

超高齢社会本番を迎え、大きな意義

24年ぶりの京都開催を縁の下で支える

上本 伸二
総務委員長



2015年が明け、「第29回日本医学会総会 2015 関西」開催に向けて、いよいよカウントダウンに入りました。総務委員会では、全国から上洛される同窓の皆さまをお迎えするため、多方面にわたりなお綿密に準備を続けております。

京の玄関口、京都駅周辺では、学術講演開催に先立つ1週間を「医総会 WEEK」と銘打って、市民の皆さまに広く開かれた医療・健康に関するセミナーをはじめ、楽しいイベントなどを用意して、京都では実に24年ぶりの開催となる医総会を盛り上げます。

また、この総会の会場である国立京都国際会館(宝ヶ池)、みやこめっせ(岡崎)、京都大学と京都駅の各拠点を結ぶシャトルバスの運行や、美しい花の季節の京都を併せてお楽しみいただくための観光ツアーの充実、ホテルの確保など、さまざまな「おもてなし」をご用意しております。

総務委員会ではご参加の方々がより快適に会期中お過ごしいただけるよう、さらにきめ細かく準備を進めて参ります。芝蘭会の会員諸氏におかれましても、母校京都大学を拠点に開催される医学会総会に、ぜひ事前登録いただけますようお願い申し上げます。

第29回日本医学会総会 2015 関西

いよいよ開催迫る!

芝蘭会会員の皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

事前参加登録受付中! http://isoukai2015.jp/

事前登録デスク

TEL : 03-6736-4369 FAX : 03-5963-3277

E-mail : regi-desk@isoukai2015.jp

平日 : 10:00 ~ 17:00

【 概 要 】

メインテーマ

医学と医療の革新を目指して
— 健康社会を共に生きるきずなの構築 —

会 頭

井村 裕夫 (京都大学名誉教授、元京都大学総長)

会期・会場

1) 学術講演

4月11日(土)～4月13日(月)

- 国立京都国際会館、グランドプリンスホテル京都、京都大学百周年時計台記念館
2) 学術展示
4月10日(金)～4月13日(月)
国立京都国際会館、京都市勧業館「みやこめっせ」
3) 一般公開展示
3月28日(土)～4月5日(日)
神戸国際展示場ほか
4) 医学史展
2月11日(水・祝)～4月12日(日)
京都大学総合博物館
5) 医総会 WEEK
4月4日(土)～4月12日(日)
京都劇場、メルパルク京都、その他京都駅周辺

【 学術講演「20の柱」 】

メインテーマに沿って、今日の社会が直面する20の課題について分野横断的な議論が行われます。詳細については、ホームページ (http://isoukai2015.jp/) の学術講演の欄をご覧ください。

医 学

- 1) トランスレーション科学の振興
2) 臨床研究の推進
3) 先制医療 (個の視点からの予防医学)
4) 再生医療

退任あいさつ

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学の伊藤壽一です。本年1月15日をもって京都大学大学院医学研究科を退任させていただきます。私が着任致しましたのは2000年の初めで、ほぼ15年間京都大学でお世話になりました。外科系の診療科ですと手術を中心とした臨床を充実させるのが第一の使命ですが、特に京都大学ではそれに加えて充実した基礎研究、また若い医師の教育に重点を置くことが求められます。就任当初は特に後者2点、その中でも基礎研究に関

15年間、充実した楽しい日々

滋賀県立成人病センター研究所長 伊藤 壽一

その後耳鼻咽喉科内の研究体制も整い、特に内耳の研究では日本ではトップランナーの教室になったと自負しています。しかし本当に世界のトップであるかという期待したいと思えます。臨床の面では、特に外科系の教室では、一般の手術を充実することは重要ですが、少しでも将来を見越した新規のものを開発する必要があるとの



新任あいさつ

平成26年7月1日付で、医学研究科神経・細胞薬理学(薬理学第二講座)の教授を拝命いたしましたので、ごあいさつ申し上げます。私は平成2年に本学医学部を卒業した後、京大病院、大阪赤十字病院にて内科研修、診療に携わりました。平成5年に大学院へ進学。所属する内科学第二講座の中尾和

教授のご高配により、薬理学教室に向き、成宮周教授のもとで細胞内情報伝達の研究に従事しました。その後、平成11年から3年間ハーバード大学医学部のJim Michelson教授のもとに留学しました。この時、私の研究の礎となった細胞内分子を1分子ずつ可視化する蛍光単分子イメージングを編み出す機会に恵まれました。細胞の形態変化や遊走は、発生、免疫、がんの浸潤など多くの生命機能

動的な生命システムの学習を

神経・細胞薬理学教授 渡邊 直樹



の動画を撮る研究に没頭しました。そこで、蛍光標識したアクチン分子をごく少数(内在性のアクチン十数万個につき一つ程度)導入し、高感度顕微鏡で撮影すると、個々の分子を可視化することができると気づきました。分子がいつどこでどれくらいの間、細胞構造に組み込まれるかを計測

と、まだまだやり残したことはたくさんあります。また多くの優れた基礎研究結果が臨床に結びつくまでには至っていません。この課題は後進に

観点から行ってききました。耳鼻咽喉科研究室の中には手術実習室という設備があり、そこには学内だけでなく、関連病院内の医師、また時には公

国内外の多くの若手医師が集まり、手術のトレーニングだけでなく、新規手術法の模索などを行ってききました。本手術実習室・トレーニングプログラ

この15年間を振り返り、特に京都大学だからこそだと思えますが、ここでの生活は本当に充実した楽しい毎日でした。極端に言えば毎日新しい発見、刺激で、また多くの若い医師、優れた研究者たちに囲まれて

薬剤を使用するうえで重要なのは、量的な考察です。同じ薬でも低い濃度と高い濃度では標的の種類がかわるかもしれま

平成26年12月1日付で、医学研究科附属動物実験施設/実験動物学分野の教授を拝命致しましたので、芝蘭会会員の先生方にご挨拶申し上げます。私は、昭和54年に本学理学部に入學し、化学教室の生物化学研究室で卒業研究を行いました。大学院は本学理学研究科に進学し、ウイルス研究所

研究・教育を支える動物実験施設

附属動物実験施設(実験動物学) 教授 浅野 雅秀



先生と山村先生ぐらいたかトランスジェニックマウスの作製に成功しておらず、試行錯誤のすえやっと目的のマウスの作製に成功の後、ドイツのマックスプランク生物物理化学研究所(Peter Gruss教授)に留学して発生生物学の勉強を始め、Pax遺伝子群の解析とPax細胞を用いた遺伝子ソックアウトされた(財)大阪バイオサイエンス研究所(OBI)

71回・2014(平成26)年版 芝蘭会会員名簿 刊行!

名簿作成にご協力いただき、ありがとうございました。この度、平成26年12月に芝蘭会会員名簿を刊行いたしました。名簿作成にあたり、会員の皆様から快く異動情報等をお寄せいただき感謝申し上げます。会員名簿をご希望の方は、芝蘭会事務局(075-751-2713)までお問い合わせ下さい。

- 会員名簿: A4判、890頁
● 会員旗布代: 一部 5,400円(消費税を含む)(但し、会費納入者に限る。その他は10,800円)
● 送料: 700円

訂正とおわび

平成26年11月25日に刊行いたしました「芝蘭会会員名簿 平成26年71回」におきまして、氏名の一部に誤りがありました。会員ならびに関係者の皆さまには大変ご迷惑をおかけいたしました。謹んでおわび申し上げますとともに、下記のとおり訂正いたします。よろしくお願ひ申し上げます。

芝蘭会事務局 株式会社廣濟堂

Table with columns for page number, name, and address. It lists corrections for members on pages 124, 147, 153, 165, 169, 194, 234, 408, 431, 465, 467, 470, 471, and 500.

ればデジタル的に一対一に対応させて考察し、今一度、動的な生命システムを定量的に理解することや副作用を考察できる、医療や研究の場をリードする人材を育てて参る所

に長田重二先生が医科研究の実験動物研究施設の核にDNAを微量注入する方法でトランスジェニックマウスの作製を行いました。当時は日本では勝木

先生と山村先生ぐらいたかトランスジェニックマウスの作製に成功しておらず、試行錯誤のすえやっと目的のマウスの作製に成功の後、ドイツのマックスプランク生物物理化学研究所(Peter Gruss教授)に留学して発生生物学の勉強を始め、Pax遺伝子群の解析とPax細胞を用いた遺伝子ソックアウトされた(財)大阪バイオサイエンス研究所(OBI)

このたび、母校に教授として戻る機会をいただき、たいへん嬉しく、光栄に感じております。世界最先端の研究を推進する医学研究科の研究・教育を支える動物実験施設としてその役割を担う共に、自身も医学研究科の名に恥じない研究を展開できら貢献もしてまいりました。

このたび、母校に教授として戻る機会をいただき、たいへん嬉しく、光栄に感じております。世界最先端の研究を推進する医学研究科の研究・教育を支える動物実験施設としてその役割を担う共に、自身も医学研究科の名に恥じない研究を展開できら貢献もしてまいりました。

このたび、母校に教授として戻る機会をいただき、たいへん嬉しく、光栄に感じております。世界最先端の研究を推進する医学研究科の研究・教育を支える動物実験施設としてその役割を担う共に、自身も医学研究科の名に恥じない研究を展開できら貢献もしてまいりました。

京都大学医学部 校友会・教育研究支援基金 (KMS・FUND) だより

事務局
〒606-8501
京都市左京区吉田近衛町
京都大学医学部学生会館内
Tel.075-761-2467
Fax.075-752-1528
Mail-Address:
kyoto-kms-fund@office.
med.kyoto-u.ac.jp

学生会館 大切に利用を

温かい支援に感謝 KMS-FUND 発足 8 年 時計塔、卒業生遺族が寄贈



寄贈者名と学生会館中庭の時計塔 (左)。時計塔に取り付けられた「ありがとう」のプレート

間熱心に勉学に励まれ、多くの友と共に充実した学生生活を過ごされた後、平成19年3月に本学を卒業された片山智子さんのご遺族から贈られたものであることを紹介します。片山さんは、卒業後、結婚され古川智子さんとなりましたが、残念なことに、平成20年3月に急逝されました。ご遺族から智子さんの思い出の場所である京都大学医学部へ寄贈の申し出を受け、学生会館竣工に合わせて、時計塔とベンチとして頂いたものです。時計塔にはご本人のサインで「ありがとう。古川智子」と書かれたプレートが掲げられています。この時計塔は学生会館のシンボルとして、若い後輩たちを日々見守りながら、時を刻んでくれています。

芝蘭会員の皆さま、京都大学の先生方、先輩たちの温かい愛情を心に、学生の皆さんは伝統のパトンを引き継いでいただくことを願います。何より学生会館を大切に利用し、後輩たちのためにきれいに遺してくださいませ。すようお願いします。

京都大学医学部教育研究支援基金(KMS・FUND)は平成19年3月、京都大学医学部生、院生の教育および研究支援を目的として、成宮周名誉教授の医学研究科長時代に発足しました。芝蘭会、校友会、教職員をはじめ、その他多くの皆さまの支援のおかげで、この8年を迎えます。まず、皆様の温かいご理解とご支援に心より感謝申し上げます。

KMS・FUNDは、当時老朽化が甚だしく、衛生面、耐震面にも多くの問題を抱えていたクラブボックス(部室)を置く学生集会所の建て替えを最初の事業目標としました。そして、平成22年寄付金が1億円に達したことを機に建設が始まり、11月芝蘭会館本館の西側に京都大学医学部学生会館として立派に竣工されたものです。当時の在校生たちは自分たちが日々利用するクラブの部室が一日も早く新しくなることを願い、自らクラブの先輩や関係者の皆さまへ募金活動を行い、協力してくれました。

現在、この学生会館を利用しての学生は、その完成後、平成23年以降に本学に入学してきた学生が大半を占めるようになり、学生会館は入学当

メディカルコル、卓球、バレー各部 晴れの校友会賞表彰



校友会賞を受賞した各クラブの代表ら

時から現在の場所にある。そして、平成22年寄付金が1億円に達したことを機に建設が始まり、11月芝蘭会館本館の西側に京都大学医学部学生会館として立派に竣工されたものです。当時の在校生たちは自分たちが日々利用するクラブの部室が一日も早く新しくなることを願い、自らクラブの先輩や関係者の皆さまへ募金活動を行い、協力してくれました。

平成26年9月20日に開催された第7回校友会総会に於いて、第3回京都大学医学部校友会賞の表彰式を行いました。

クラブ活動において優れた実績を残し学業と両立させている医学部公認団体を励まし援助することを目的として「京都大

若手研究者優秀論文賞 KMYIA 受賞者の言葉

始原生殖細胞の運命決定研究

このたびは、京都大学医学部若手研究者優秀論文賞を頂き、誠にありがとうございます。このような賞を頂き、大変光栄に存じます。京都大学医学部教育研究支援基金(KMS・FUND)にご寄付頂いた皆さまをはじめ、論文作成にあたり、多大なるご指導を頂きました斎藤通紀先生、ならびに機能微細形態学分野の皆さまにもこの場を借りて心より御礼申し上げます。

今回受賞対象となりました論文は、生殖細胞系譜の起源である、始原生殖細胞の運命決定機構に関するものです。生殖細胞は、次世代に遺伝情報を伝達するための細胞ですが、哺乳類の始原生殖細胞は、他の体細胞と同様に、着床後胚(エピブラスト)の細胞から誘導されます。すなわち始原生殖細胞は、一個体を形成しうる潜在的な「分化全能

医学研究科機能微細形態学分野

中木 文雄

性」を発生過程で獲得すると推測されます。

このように、始原生殖細胞の発生は、生物学的に重要な問題を含んでいます。従来は詳細な解析が困難でした。最近、マウス多能性幹細胞(iPS)またはPS細胞)から、始原生殖細胞様の細胞を誘導する培養法が斎藤研究室で開発されました。この培養法は、生体内における始原生殖細胞の誘導を培養皿で再現するもので、誘導には BMP4 というサイトカインが必須です。

本論文では、この培養法を用いて、遺伝子の強制発現により生殖細胞を誘導することを試みました。その結果、Blimp1、Prdm14、Tnfr2c という3種類の遺伝子(転写因子)をエピブラスト様の細胞に強制発現させると、BMP4 に依存せず、始原生殖細胞様の細胞が迅速に誘導されることが分かりました。誘導した細胞を、不妊のマウス新生

視覚情報選択の神経機構解明へ

医学研究科認知行動脳科学分野 (論文発表時)

西田 知史

このたびは KMYIA を受賞させて頂き、身に余る光栄と深く感謝致しております。また、京都大学医学部関係の諸先生方、そして博士課程においてご指導頂いた河野憲二先生、小川正先生をはじめ認知行動脳科学分野の関係者の方々、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

受賞対象となりました論文の内容は、脳内の視覚情報処理において不要な情報を排除するために必要な神経機構に関するものです。私たちの日常環境では、目から入力される視覚信号に多くの情報が含まれており、その中から必要な情報のみを選択的に抽出して効率的な認知処理を行うためには、不要な情報の排除が重要となります。私はその神経機構を解明するため、認知行動課題を遂行中の動物において後頭頂皮質と呼ばれる脳領域から神経発火活動の記録を行いました。そして、課題遂行に必要な視覚情報に対する発火活動の促進と同時に、不要な視覚情報に対する発火活動の抑制が生じることを観測しました。さらには、このような促進と抑制に、神経細胞間で生じる抑制性の相互作用が重要な寄与を行うことを示し、視覚情報選択に関わる神経機構の一端を明らかにしました。

脳機能に起因する行動障害の中には、注意欠如・多動症のようにならざるに排除に支障を及ぼすものが存在します。そのような障害が生じるメカニズムの解明、ならびに治療法の確立に貢献していき所存です。

末筆ではございますが、教育研究支援基金にご寄附頂いた方々に深く感謝申し上げます。また、ますますのご発展を心より祈念致します。

学医学部校友会賞」を創設し、ことしで3回目と なります。2014年度の校友会賞は、13年9月から14年8月までを単位年度として応募して頂きました。

第1回、第2回は文化系・体育系各1団体に贈りましたが、医学部公

ぜひ入会してください 校友会からお願い

京都大学医学部校友会は、会員が先生方、職員の皆様と連携し学生を支援しています。また、会員と先生方との有意義な交流の場でもあります。ぜひ未入会の皆さまのご参加をお待ち申し上げます。

手続き等につきましては校友会事務局までお問い合わせください。

TEL 075-753-4322 FAX 075-752-1528

混声合唱団メディカルコル部は、創部の原点となった京大病院でのキヤンドルサービスクエンヤ、老人ホームや公立病院での慰問コンサートなどの社会的活動を続けてきました。卓球部は、秋の近畿大会では団体戦で優勝、春の近畿大会では団体戦準優勝という成績に加え、定期戦や交流戦と広い範囲で他大学との交流を続けてきました。

春の近畿大会とともに3位、また昨夏の西日本医科学学生総合体育大会では44校中4位という優れた成績を修めています。それぞれの活動実績を評価して、この3団体に賞状及び支援金各5万円を贈りました。

なお、次回(第4回)校友会賞の募集は6月頃を予定しています。出願要項等は各団体へのメールや学内掲示板でお知らせする予定です。奮ってご応募下さい。(校友会 生活・課外活動支援委員会委員長 川上文子)

書籍紹介

医療に携わる人を鼓舞

京都大学医学部神経内科同門会編 「高風萬里」

本書は老年医学講座二代目教授(昭和50年11月発令)、神経内科学講座初代教授(昭和54年10月発令) 亀山正邦先生(大正13年/平成23年)の追悼文集その他である。本年三回忌、京大教授就任40周年を迎えるにあ

本書がやや異色なのは、追悼文以外に、先生の随筆集「臨牀偶感」(平成17年12月刊行 70編収録 非売品)の追補エッセイ合計30編、「臨牀偶感」への礼状と主たる業績を含めたことである。

口絵写真類(第一高等学校時代/住友病院長まで)24葉。写真以外は12部門のセクションに分かれ、はしがき(高橋良輔)、第一高等学校時代(12編)、東大医学部時代(12編)、浴風会病院時代(12編)、長寿医療センター) 副院長



長時代(17編)、京大教授時代(27編)、住友病院長時代(20編)、神経内科学同門会(44編)、学会交流関係(8編)、その他親族(8編)、「臨牀偶感」補遺部(20編)、葬儀弔辞(松澤祐次・高橋良輔・宇高不可思)と頌詩・弔詩(計6編)と学歴・職歴一覧、業績集一覧・その他、寄稿者など略歴(153名)、本文注解(295項目)、各セクションにはそれ

あとがき(中村重信)からなる。若い人たちのために、寄稿者の履歴は学会講演会での演者紹介程度にまで巻末に紹介されており、味読の一助となっている。また「臨牀偶感」への礼状執筆一覧(教授以上で118名)を参照するだけで先生の主な交遊関係が偲ばれる。

編集者・岩辻賢一郎・宇高不可思(昭和52年卒) 発行者・神経内科同門会会長・高橋良輔 (紹介者・岩辻賢一郎)

京大主催!

世界のトップリーダー、京都に集結

2015年4月、日本で初めて世界医学サミットが開催されます。国内外を代表する著名な医師や研究者、行政、産業界の代表が集結する貴重な機会です。エボラウィルスを共同で発見したピーター・ピオット大学院院長(ロンドン大)、高齢社会を進める森雅志氏(富山市長)、スポーツから健康増進を目指す室伏広治氏(アテネ五輪金メダリスト)など、各界のリーダーが「折れない力を医療に、医学アカデミアの社会的責任」を基調テーマとして議論します。

今春4月13日・14日、京都で日本初の世界医学サミット

早期登録は2月28日まで



折れない力を医療に - 医学アカデミアの社会的責任

会長 | 湊 長博 京都大学 理事・副学長 福原 俊一 京都大学医学研究科 社会健康医学系専攻長

会期 | 2015年4月13日(月)・14日(火) 会場 | 国立京都国際会館、グランドプリンスホテル京都

主要テーマ | 超高齢社会への挑戦 自然災害への対応と準備 次世代リーダーシップの育成

Highlight 近未来の医療を支えるプライマリ・ケア (4月13日(月)14:15-15:45)

超高齢社会に突入し、多疾患を合併する高齢患者が増える今、プライマリ・ケア医療への転換は必須の方向と考えられています。近未来の医療を取り巻く諸課題とプライマリ・ケアの可能性について、各国の例と対比しながら解決策を検討します。

座長 | 丸山 泉 (日本プライマリ・ケア連合学会 理事長) Thomas S. Inui (Indiana University 教授)

演者 | Leiyu Shi (Johns Hopkins Primary Care Policy センター長) Amanda Howe (University of East Anglia 教授) Lee Kheng Hock (Singapore General Hospital 准教授) 草場 鉄周 (日本プライマリ・ケア連合学会 副理事長)

主催 | 京都大学 共催 | 福島県立医科大学 日本医師会生涯教育講座【5単位/日】 日本プライマリ・ケア連合学会 専門医・認定医更新【5単位】

公式HP http://www.worldhealthsummit.org/regional-meeting/

同時通訳



特別講演 高橋 政代 理化学研究所 (4月14日(火) 16:00 - 16:45)

iPS細胞の臨床応用を実施 「2014年に最も注目すべき5人」(英Nature誌)



特別講演 山海 嘉之 筑波大学教授 (4月14日(火) 12:00 - 12:45)

世界初のサイボグ型ロボットである ロボットスーツ「HAL」を開発

基調講演



John Ayanian 医療政策研究の世界的権威



Barry Bloom 感染症研究の第一人者



Ichiro Kawachi 社会疫学の創始者



Peter Piot エボラウィルスを発見

4月13日(月) Global Health R&D 健康なまちをデザインする 医療ビッグデータ

4月14日(火) 高齢者の健康維持とスポーツ 医療技術評価 (HTA) 医学アカデミアの新しいリーダーシップ醸成 ソーシャル・キャピタルと健康長寿 災害後の回復可能な社会の構築 - 福島の実験から

それ各時代の解説がついており、部外者にも理解しやすくなっている。また各セクションには恩師 尼子富士郎(これから君は他人よりよい仕事をしようなどとは思わないで、学問自体を目標に進むんだね)や沖中重雄(医学の倫理なき医学の進歩は盲目的であり、医学の進歩なき医学の倫理は空虚である)先生の名言や亀山先生31歳時の立志(脳の病気の闘いは、現代の医学の一つの崇高なる情熱でなければならぬ)などが適宜引用されており、追悼のみならず、医療に携わる人を鼓舞するように配慮がなされているところには未来志向が伺われる。

芝蘭会費納入は自動振替で

平成17年度より芝蘭会費の納入方法として、「銀行口座等からの自動引き落とし」を採用させていただいております。会費納入のお手間が大幅に省かれ、また、会費の二重払いの防止にもつながります。ぜひ、ご利用いただきたくお願い申し上げます。

手続き等については、 芝蘭会事務局 (TEL 075-751-2713) までお問い合わせください。

平成26年度芝蘭会費の金額改定についてのお願い

会員各位におかれましては、日頃から芝蘭会の活動と運営に対してご支援とご協力をいただき厚く御礼を申し上げます。芝蘭会では、平成27年4月11日から3日間にわたって開催されます「第29回日本医学会総会2015関西」に呼応して、平成27年4月11日(土)に1000人の芝蘭会員が参集する臨時総会の開催を予定しています。この臨時総会を開催するにつきまして、多額の費用が必要でございますので、その費用を捻出するため、下記のとおり正会員の年会費を平成26年度に限り、5,000円から7,000円に改定することが、平成26年3月15日開催の臨時総会、評議員会、理事会において承認されました。会員各位におかれましては、今回の会費値上げにご理解をいただくとともに、今後ともご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

「京都大学医学部記念講堂・歴史資料館基金」募金の現状

平成26年12月26日(金)現在 ・「三井住友銀行」利用のご寄付 310人(法人を含む) 56,290,000円 うち、50万円以上のご寄付は56人(法人を含む) ・「ゆうちょ銀行」利用のご寄付 251人 5,967,000円 うち、50万円以上のご寄付は2人 計561人(法人を含む) 62,257,000円

最近の外科医の動向知る



和やかな愛媛支部総会

創業などの臨床研究が進められているとのことでした。また、メディアカルイノベーションセンター(MIC)についての話もあり、ここでは大学と企業の研究者が協力してシーズを創っているとのことでした。

「京大外科交流センターにおける外科医の教育システム」では、まず、最近の外科医の動向についての話がありました。

外科医の人数は、一時期減少傾向にありましたが、診療報酬の影響からか最近では増加傾向にあるとのことでした。また、女性の割合については、最近の外科学会に入会する女性の割合は20%程度であるとのことでした。

続いて、京大外科交流センターについての話がありました。京大外科交流センターは、静岡支部の支部長を務められている島本光臣先生によるあいさつ

外科学会学術総会 大成功の実例学ぶ

【静岡】

平成26年11月1日(土)、静岡グランドホテル中島にて平成26年度芝蘭会静岡支部総会、懇親会が行われました。

で開かれました総会では、物故会員への黙とう、芝蘭会総会・理事會・評議会の役員選出などに関する規定の説明、会計報告などが行われ、途中Windows 8の操作に苦しめられ進行を妨げられる場面も見られました。島本先生をはじめとする静岡支部の方々のユーモアあふれる語りには場は始終和やかな雰囲気でした。



「静岡のよさ」の話しも出た静岡支部総会

春の進路相談会を行ったりと、様々な活動を行っているとのことでした。講演終了後、同会場に懇親会が開かれ、先生方をはじめ、先輩方の学生時代のことや、医療の現状など、非常にためになる話を聞か

せていただきました。それと同時に、愛媛支部総会・懇親会の報告を終わらせていただきます。 (文責：5回生 鶴田将史)

レ스토랑で懇親会が行われました。懇親会では、さまざまな先生がひっきりなしに私たちに話して来てくださり、いろいろな話をおもしろおかしく聞かせていただきました。

と、静岡支部の先生方から静岡の宣伝をお願いされたので、静岡は京都から遠いもの、名古屋からは遠いもの、近頃は魚の美味しい沼津や焼津もあり、遊び場所にもおいしいものにも事欠きません。また病院の規模も非常に大きく内科もさることながら特に外科では京大の大先輩方が多数おられます。実習先として遠方の外病院は学生からとくく嫌われがちですが、静岡は大変安心で、静岡は良い場所なので、これから臨床実習や病院見学を行われる方はぜひ静岡も検討されてはいかがでしょうか。

琵琶湖の環境と水、生活に焦点

【滋賀】

平成26年10月18日(土)、北ビワコホテルグライツにて、芝蘭会滋賀支部総会が開かれました。

「医学研究科・医学部の現況」ならびに「京大外科交流センターにおける外科医の教育システム」という演題で講演されました。

「医学研究科・医学部の現況」では、湊長博先生が京都大学理事・副学

長として執行部入りされ、10月1日より上本伸二先生が医学研究科長・医学部長に就任されるなどといった運営体制についてのお話がありました。また、臨床研究総合センターが、治験を含む

湖は何か?という問いを投げ掛けられました。私たちのほとんどは「琵琶湖が最も大きい」と即答しますが、それはほぼ全てが「最も表面積の大きな湖は何か」という問いに変換して答えたものです。しかし同じ「大きさ」でも表面積だけではなく容積という尺度も存在し、湖に生ける生物の視点に立つとこちらの物差しの方が重要であるといえるのです。どちらにしても問の答えは琵琶湖であることには変わりないのですが、この問いは「生物学的」、または「文明的」にも古代湖である場合が多く見受けられます。中でも琵琶湖はビワコオオナマズな

湖は何か?という問いを投げ掛けられました。私たちのほとんどは「琵琶湖が最も大きい」と即答しますが、それはほぼ全てが「最も表面積の大きな湖は何か」という問いに変換して答えたものです。しかし同じ「大きさ」でも表面積だけではなく容積という尺度も存在し、湖に生ける生物の視点に立つとこちらの物差しの方が重要であるといえるのです。どちらにしても問の答えは琵琶湖であることには変わりないのですが、この問いは「生物学的」、または「文明的」にも古代湖である場合が多く見受けられます。中でも琵琶湖はビワコオオナマズな

講演は続いて、琵琶湖が古代湖であることについての話題に移りました。一般的に湖は、河川から流入する堆積物で埋め立てられてしまったために、数千年から数万年でその寿命を終えてしまうといわれていますが、中には10万年を超える寿命を持つ湖も例外的に存在し、それらを古代湖と総称します。湖の寿命に関して述べているのでこの定義は「地理的な意味での古代湖」と言えますが、それらは「生物学的」、または「文明的」にも古代湖である場合が多く見受けられます。中でも琵琶湖はビワコオオナマズな



思い出話にも花が咲いた滋賀支部総会

どの固有種が生息しているのか、古くから地域の人々に利用され生活の環境に含まれていたことか、あらゆる意味で深い歴史を持った「古代湖」と呼ぶに値するのです。

このように長年日本人に親しまれてきた琵琶湖にも、現在さまざまな環境問題が取り巻いています。琵琶湖の水は関西中で広く浄水として利用されてきたように、人間は自分たちの住むところに住む、つまり「環境容量内に人間の生活を留める」ことが最終的な課題になってくることなのです。この考えは極端に難しいことのように聞こえますが、自然の築いてきた歴史とそれに比べた人間の小ささを考えると、

度それを崩してしまうと修復にもかなりの期間を要してしまうそうです。先生は、今後私たちが少しでも琵琶湖の環境を改善しようとするならば、まずは水を「ほしいだけ使う」というやり方から「自然から、おすそわけ」をもらうといった考え方に根本的に変えていくことが必要であると述べられました。

記念講演の後、場所を移して記念写真撮影が行われ、続いて懇親会が行われました。先生方は学生である私にも気軽に話してください、学生時代の思い出話や現在と昔の医療がどのように違うのかなどといった貴重な話をたくさん伺うことができました。

会では最終和やかな雰囲気でも進められ、皆さん非常に楽しんでいらっしゃる様子が見受けられました。最後にありがとうございました。このように貴重な会にお招き下さったことに感謝の意をもって滋賀支部総会の報告を終わらせていただきます。

最近、芝蘭会の方々へ芝蘭会 または京大医学部事務職員の名前をかたて、個人情報(住所、電話番号等)を聞き出すとする不審な問い合わせの電話があるということがあります。芝蘭会とは全く関係がございませんので、くれぐれもご注意ください。 (文責：2回生 朴剛史)

芝蘭会 事務局

TEL:075-751-2713 FAX:075-752-4015

卒後教育システム考える



少人数ながらも深い交流のあった島根支部総会

【島根】

平成26年11月22日(土)、

サンラポーむらぐもにて、京都大学医学部芝蘭会島根支部総会が開かれました。秦公平先生の開会の辞、中川正久先生の支部長あいさつ、議事、芝蘭会本部報告を経て、特別講演がありました。

特別講演は医学研究科長・医学部長であり、外科学講座教授である上本伸二先生による「卒後教育システムと専門医制度」京都大学外科学交流センターについて」というものでした。

先生の講演は大学を卒業した後の教育システムを考える必要があると近年言われて、それを念頭に置いた①医師の動向②京大の初期研修③京大外科学交流センター④今後の専門医制度について、の主に四つのトピックに関するものでした。近年外科医の数は回復傾向にあるけれども、女性外科医の数を増やしたい、若手外科医の教育を第一

目的とした京大外科交流センターを作り、若手の医師が集まるような組織作りを目指している、少なくとも現在以上に医師が偏在することがないよう地域医療に十分に配慮しなくてはいけない、などと話されています。とても実践的な話で、支部の先生方もたくさん質問をされ、議論が盛り上がりしました。

引き続き、秦先生の司会のもと、懇親会が開かれました。15人程度の小規模の懇親会でしたが、その分どの先生方も、他の先生方とより深く交流できたようでした。こうして宴もたけなわとなり、惜しまれながらも再開となりました。

今回このような素晴らしい会にお招きいただき本当にありがとうございます。これで島根支部総会の報告を終わらせていただきます。

(文責：2回生 梅本大地)

人事異動

発令年月日	氏名	異動内容
H26.12.31	岡部 寛	辞任 消化管外科学准教授より 大津市民病院外科部長へ
H27.1.1	平野 滋	昇任 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講師より 同准教授へ
H27.1.1	静田 聡	昇任 循環器内科助教より 同講師へ
H27.1.1	南 学	昇任 臨床研究総合センター助教より 同講師へ
H27.1.15	伊藤 壽一	辞任 耳鼻咽喉科教授より 滋賀県立成人病センター研究所長へ

発令年月日	氏名	異動内容
H26.10.31	花田 俊勝	辞職 メディカルイノベーションセンター TK 特定准教授より 大分大学医学部教授へ
H26.11.1	石黒 洋	採用 京大病院外来がん診療部特定講師より 寄附講座(標的治療腫瘍学講座) 特定准教授へ
H26.11.15	村山 敏典	辞任 臨床研究総合センター准教授より 金沢大学附属病院医療技術開発部教授へ
H26.12.1	浅野 雅秀	採用 金沢大学教授より 動物実験施設教授へ
H26.12.1	小谷 泰一	昇任 法医学講師より 同准教授へ
H26.12.1	尾野 亘	昇任 循環器内科学講師より 同准教授へ

会員訃報 (敬称略) 謹んでご冥福をお祈りいたします。

山内 周 昭和9年卒 平成26年12月9日 逝去	岸田 恭一 昭和25年卒 平成19年8月9日 逝去	本田 裕宏 昭和39年卒 平成26年9月13日 逝去
上原 欣治 昭和18年卒 平成26年12月30日 逝去	川島 史郎 昭和26年卒 平成26年11月19日 逝去	真鍋 博 昭和39年卒 平成26年9月28日 逝去
鋤柄 喜平 昭和20年卒 平成25年9月12日 逝去	清水 孝基 昭和26年卒 平成26年9月29日 逝去	利光 徹 昭和42年卒 平成26年9月30日 逝去
鷺尾 滋夫 昭和20年卒 平成27年1月21日 逝去	宮崎 栄一 昭和26年卒 平成26年 逝去	上原 鳴夫 昭和47年卒 平成26年9月 逝去
加藤 正之 昭和22年卒 平成17年1月22日 逝去	杉浦 貞子 昭和26年卒 平成26年9月24日 逝去	大西 秀一 昭和54年卒 平成24年 逝去
近藤 茂 昭和22年卒 平成26年10月8日 逝去	木下 辰男 昭和28年卒 平成26年12月14日 逝去	愛波 秀男 昭和59年卒 平成26年12月9日 逝去
白崎 重信 昭和22年卒 平成26年9月24日 逝去	高橋 清 昭和30年卒 平成26年9月11日 逝去	田縁 邦夫 教会員 解剖1 平成26年12月4日 逝去
森脇美都夫 昭和22年卒 平成26年10月3日 逝去	岩橋 寛治 昭和33年卒 平成26年7月31日 逝去	河村彌須子 教会員 内3 平成26年2月12日 逝去
成田 稔 昭和23年卒 平成26年9月28日 逝去	大林 正彦 昭和34年卒 平成26年7月20日 逝去	加藤 正臣 教会員 整外 逝去
山崎 俊一 昭和25年卒 平成26年7月29日 逝去	佐々木嘉彦 昭和34年卒 平成26年9月15日 逝去	黒田 英樹 教会員 産婦人科 逝去
伊藤 義昭 昭和25年卒 平成26年10月2日 逝去	平野 彰一 昭和34年卒 平成27年1月18日 逝去	
二宮 聖耳 昭和25年卒 平成26年12月5日 逝去	立石 恭子 昭和35年卒 平成26年12月9日 逝去	

原稿募集

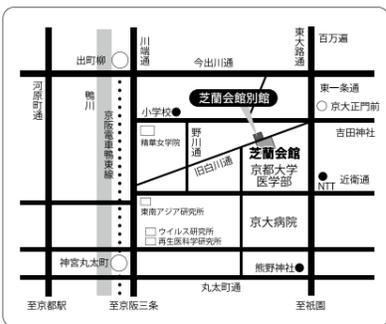
芝蘭会報は、会員の皆様の情報交換・意見発表の場です。支部活動、クラス会、会員の著書の紹介(自薦・他薦)及び医学・医療等に関するご意見を寄稿ください。なお、原稿の採用及び掲載時期については、編集委員会で決めさせていただきます。芝蘭会報 編集委員会

●事務局から●

平成17年4月からの「個人情報保護法」の全面施行により、個人情報の取り扱いに厳しい制約が課せられました。つきましては会員の連絡先等のお問い合わせは、必要理由等を明記の上、郵便またはFAXにより事務局までご送付ください。電話でのお問い合わせにはお答え致しかねますのでご了承ください。(FAX 075-752-4015)

芝蘭会館がご利用いただけます

学会やシンポジウムへのご出席はじめ、同窓会などのお集まりや、京都観光のご宿泊に、芝蘭会館別館[国際交流会館]をご利用ください。



芝蘭会館別館

〒606-8302 京都市左京区吉田牛の宮町11-1
Tel. 075-771-0958 Fax. 075-752-4015
E-mail: info@shirankai.or.jp http://www.shirankai.or.jp

レストラン[しらん] Tel. 075-752-1027

芝蘭会館別館へのアクセス

- 京都駅から
●D2乗場 市バス206系統「東山通北大路バスターミナル」行「京大正門前」下車徒歩2分
- 地下鉄「国際交流会館」行「今出川」下車出口3番、市バス201系統「百万遍・祇園」行乗換「京大正門前」下車徒歩2分
- 阪急河原町駅から
●出口6番 市バス201系統「百万遍・祇園」行、31系「統熊野・岩倉」行「京大正門前」下車徒歩2分
- 京阪出町柳駅から 徒歩15分

客室ご利用料金(税込)

シングル (18室) 定員1	6,800円
ツイン (3室) 定員2	12,700円(シングルユース10,400円)
デラックスツイン(1室) 定員2	15,000円(シングルユース12,700円)

- 宿泊室(全室洋室・禁煙)は、バス、トイレ、テレビ、冷蔵庫、インターネットジャック付きです。
- 芝蘭会館(会費納付者)は宿泊利用料金を、1,000円割引させていただきます。
- チェックインタイムは午後3時、チェックアウトタイムは午前10時となっております。
- キャンセルについては、3日前より宿泊利用料金の半額を請求させていただきます。

研修室・会議室ご利用料金(税込)

ご利用時間	9:00~12:00	13:00~12:00	18:00~22:00	超過料金
研修室1・2 定員60名	15,000円	18,400円	18,400円	4,600円
会議室B1 定員20名	9,800円	11,500円	11,500円	3,000円
和室1・2 定員10名	6,300円	8,000円	8,000円	2,300円